

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4649552号
(P4649552)

(45) 発行日 平成23年3月9日(2011.3.9)

(24) 登録日 平成22年12月24日(2010.12.24)

(51) Int.Cl.

F 1

A O 1 K 87/00 (2006.01)

A O 1 K 87/00 6 2 O B

A O 1 K 87/00 6 4 O D

請求項の数 6 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2005-120296 (P2005-120296)
 (22) 出願日 平成17年3月21日(2005.3.21)
 (65) 公開番号 特開2006-262881 (P2006-262881A)
 (43) 公開日 平成18年10月5日(2006.10.5)
 審査請求日 平成20年3月17日(2008.3.17)

(73) 特許権者 505093219
 大暮 啓樹
 広島県広島市安佐南区伴東1-38-32
 (72) 発明者 大暮 啓樹
 広島県広島市安佐南区伴東1-38-32

審査官 松本 隆彦

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 釣糸係止具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

釣糸を係止するために穂先竿の穂先側先端に備えられる、釣糸を係止するための釣糸係止具であって、

穂先竿の穂先側先端に装着された本体部と、

前記本体部の穂先側端部に突出して取付けられた管状部と、

その管状部に回転自在に嵌められて取付けられた球体と、

前記球体の表面以内に収まるように、前記球体に備えられ、釣糸を前記球体に直接係止するための係止手段と

を備えていることを特徴とする釣糸係止具。

10

【請求項 2】

前記球体の一部は、穂先側先端方向に前記管状部から突出して備えられていることを特徴とする請求項 1 に記載の釣糸係止具。

【請求項 3】

前記係止手段は、前記球体に一端を連結して形成した、釣糸を結び付けるための結着部と、

その結着部の他端方向に設けられ、前記結着部に結び付けられた釣糸の移動を制限する係止部と

を備えることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の釣糸係止具。

【請求項 4】

20

前記係止手段は、前記球体の中心を貫通して形成された孔部と、
前記管状部の側壁に形成された開口部と、
前記孔部に貫通させた釣糸を前記開口部に導く通路部と
を備えることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の釣糸係止具。

【請求項 5】

前記球体に、螺合して着脱可能とする、第 2 の係止手段をさらに備えていることを特徴とする請求項 4 に記載の釣糸係止具。

【請求項 6】

前記球体は、螺孔を備え、
前記第 2 の係止手段は、釣糸を結び付けるための結着部と、その結着部に設けられた雄螺子部とを備え、その雄螺子部を前記螺孔に着脱自在に螺嵌して取付け可能であることを特徴とする請求項 5 に記載の釣糸係止具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、釣竿の先端に備えられ、釣糸を結着する釣糸係止具に関するものである。

【背景技術】

【0002】

うきや釣針、おもり等の付いた仕掛け（以下、単に釣糸と呼ぶ）を直接釣竿の先端に取付けて使用する釣竿には、釣糸を釣竿に係止するための釣糸係止具が備えられている。特開平 07 - 274779 号公報、特開平 11 - 276025 号公報に示すように、最近の釣糸係止具には、釣糸が結ばれた部分を回転させるための回転体が備えられている。これは、釣糸が釣竿に絡みついた状態を解消したり、絡みつきのを防止したりするためのものである。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

ところが、特開平 11 - 276025 号公報の釣糸係止具では、回転体が釣竿の長手方向のみを回転軸としているため、釣糸係止具に結んで垂れ下がった釣糸の縊れを解消したり、防止したりすることができない。また、特開平 07 - 274779 号公報の釣糸係止具では、釣糸係止具に結んだ状態のとき、釣糸と釣竿とのなす角が小さいとき、例えば、釣針を握って餌を釣針に付けているときや、釣り人のすぐ近くに釣糸を垂らして魚を釣っているときには、釣糸を結んだ部分よりも円筒部を突出させて備えているために、釣糸が円筒部に架かった状態で下方に垂れ下がってしまう。そのため、円筒管が回転体の回転を妨害し、釣糸の縊れを解消したり、釣糸が釣竿に絡みついたりするのを防止できにくくなる。

【0004】

そこで、さらに、釣糸が釣竿に絡みにくく、絡みついた状態を容易に解消でき、釣糸の縊れを防止することのできる釣糸係止具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

請求項 1 に記載の第 1 の発明は、釣糸に係止するために穂先竿の穂先側先端に備えられる、釣糸に係止するための釣糸係止具であって、穂先竿の穂先側先端に装着された本体部と、前記本体部の穂先側端部に突出して取付けられた管状部と、その管状部に回転自在に嵌められて取付けられた球体と、前記球体の表面以内に収まるように、前記球体に備えられ、釣糸を前記球体に直接係止するための係止手段とを備えている。

【0006】

したがって、請求項 1 に記載の発明によれば、回転部分が球体であるため、球体の回転軸は一定とならないで球体は自由に回転する。釣糸が縊れると、球体は縊れを解消するよう

10

20

30

40

50

に回転する。また、釣糸が釣竿に絡みついたとき、係止手段に係止された釣糸を軽く引っ張る、または、釣糸の自重により下向きに力が加わると、球体がその力の加わった方向へ回転し、係止手段もその方向へ向きを変える。次に、釣竿の長手方向を軸として球体が回転し、釣糸の絡みつきを解消することができる。

【 0 0 0 7 】

請求項 2 に記載の第 2 の発明は、第 1 の発明に加え、前記球体の一部が、穂先側先端方向に前記管状部から突出して備えられている。

【 0 0 0 8 】

したがって、請求項 2 に記載の発明によれば、球体の一部が、穂先側先端方向に管状部から突出して備えられているため、球体に設けられた係止手段の移動範囲を広げることができる。そのため、係止手段は、釣糸にかかる力の方向に可能な限り傾くことになる。その状態で、釣糸が緩れると、球体は緩れを解消するように、係止手段の方向を軸として回転しやすくなる。また、釣糸が釣竿に絡みついたとき、釣糸を張ると、係止手段が釣糸にかかる力の方向に可能な限り傾くため、球体が回転しやすくなり、釣糸の絡みつきをさらに解消することができる。

【 0 0 0 9 】

請求項 3 に記載の第 3 の発明は、第 1 または第 2 の発明に加え、前記係止手段が、前記球体に一端を連結して形成した、釣糸を結び付けるための結着部と、その結着部の他端方向に設けられ、前記結着部に結び付けられた釣糸の移動を制限する係止部とを備えている。

【 0 0 1 0 】

したがって、請求項 3 に記載の発明によれば、釣糸を係止手段に係止する場合には、釣糸に投げ縄結びを作り、その輪に係止部を通過させてから結着部に位置させる。そして、釣糸を引っ張ると投げ縄結びの輪が締まり結着部に結び付けられ釣糸を係止することができる。このとき、釣糸の結び目が結着部をずれて移動しても係止部が結び目の移動を制限し、釣糸が係止手段から外れるのを防ぐ。次に、釣糸を係止手段から取外す場合には、投げ縄結びの輪を広げ、取付ける場合とは逆の手順で結着部から外す。

【 0 0 1 1 】

請求項 4 に記載の第 4 の発明は、第 1 または第 2 の発明に加え、前記係止手段が、前記球体の中心を貫通して形成された孔部と、前記管状部の側壁に形成された開口部と、前記孔部に貫通させた釣糸を前記開口部に導く通路部とを備えている。

【 0 0 1 2 】

したがって、請求項 4 に記載の発明によれば、釣糸を係止手段に取付ける場合には、孔部に釣糸を貫通させ、通路部を通し、開口部を通過させる。そして、通過した釣糸の先端に結び目を作って逆方向へ引くと、結び目が球体の孔部に引っ掛かって釣糸を係止することができる。釣糸を係止手段から取外す場合には、釣糸を孔部へ押し込んで結び目を通路部に通して開口部から出させる。そして、結び目を解く、または露出した釣糸を切断して釣糸を逆方向へ引っ張ると釣糸を外すことができる。

【 0 0 1 3 】

請求項 5 に記載の第 5 の発明は、前記球体に、螺合して着脱可能とする、第 2 の係止手段をさらに備えていることを特徴とする請求項 4 に記載の釣糸係止具。

【 0 0 1 4 】

したがって、請求項 5 に記載の発明によれば、第 2 の係止手段を螺合して着脱することにより、前記係止手段または第 2 の係止手段のどちらかを選択して釣糸を係止することができる。前記係止手段、または、第 2 の係止手段には、前述したように釣糸を係止したり取外したりすることが可能となる。

【 0 0 1 5 】

請求項 6 に記載の第 6 の発明は、第 5 の発明に加え、前記球体には、螺孔を備え、前記第 2 の係止手段が、釣糸を結び付けるための結着部と、その結着部に設けられた雄螺

10

20

30

40

50

子部とを備え、その雄螺子部を前記螺孔に着脱自在に螺嵌して取付けられている。

【0016】

したがって、請求項6に記載の発明によれば、第2の係止手段を用いて釣糸に係止する場合には、結着部に形成された雄螺子部を球体の螺孔に螺嵌して第2の係止手段を取付ける。そして、第2の係止手段の結着部に釣糸を取付ける。ここで、結着部とは、輪部、開口部、または孔部であり、釣糸を結着部に結び付けることのできる全ての形状のことである。前述した係止手段を用いて釣糸に係止する場合には、球体から第2の係止手段を取外して、前述したように係止手段に釣糸に係止する。

【発明の効果】

【0017】

第1の発明によると、釣糸係止具に結び付けられた釣糸を張ることにより容易に釣糸の絡み、釣糸の縊れを解消することができる。また、釣竿の使用中でも、釣糸が釣竿に絡むのを防止するとともに、釣糸の縊れを防止することができる。

【0018】

第2の発明によると、第1の発明の効果に加え、球体に設けられた係止手段の移動範囲が広がり、釣糸係止具に結び付けられた釣糸を張ると、さらに、容易に釣糸の絡み、釣糸の縊れを解消することができる。また、釣竿の使用中でも、釣糸が釣竿に絡むのを防止するとともに、釣糸の縊れを防止することができる。

【0019】

第3または第4の発明によると、第1または第2の発明の効果に加え、釣糸を容易に取付け、取外すことができる。

【0020】

第5または第6の発明によると、第4の発明の効果に加え、前記係止手段と第2の係止手段とを状況に応じて、または、自分の好みにより使い分けることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0021】

(第1実施形態)

以下、本発明を具体化した一実施形態を図1及び図2に従って説明する。

図1に示すように釣竿係止具は、ステンレス、真鍮、アルミニウム等錆びにくい金属でできており、釣竿1の穂先側先端に装着された、本体部としての係止具本体2と、その係止具本体2の穂先側端部に突出して取付けられた、管状部としての円筒管3と、その円筒管3に回転自在に嵌められて取付けられた球体4と、その球体4に設けられ、釣糸に係止するための第2の係止手段としての結着具5とを備えている。

【0022】

係止具本体2は、円柱形状に形成されている。その一方には、3列の溝6が形成され、釣竿1の穂先側先端に装着されて取付けられている。係止具本体2の他方には係止具本体2の穂先側端部に突出するように円筒管3が嵌められて取付けられている。円筒管3の側壁には、開口部としての、円形の開口7が形成されている。ここで、円筒管3の穂先側端部は、丸められたり、ラッパ形状に形成されたりしていてもよい。係止具本体2には、断面が円形であり、係止具本体2の一端から軸方向へ向かい開口7に繋がる、通路部としての通路孔8が形成されている。通路孔8は釣糸が通りやすいように緩やかに曲がっている。開口7と、通路孔8の断面形状とは、同じ大きさの円形形状に形成されている。通路孔8、その経路の形状及び開口7は、釣糸が通り易い形状であればどのように形成されていてもよい。

【0023】

円筒管3の端部内壁周囲には、円筒管3から穂先側先端方向に一部を可能な限り突出させて、球体4を回転自在に嵌めこんで取付けることができるように、湾曲して形成された球体うけ溝9を備えている。その球体うけ溝9に球体4が回転自在に取付けられている。球体4には、その中心を貫通するように、孔部としての係止孔10が形成されている。係止孔10の直径は、取付けられる釣糸の直径より大きく釣糸の結び目の直径より小さい。ま

10

20

30

40

50

た、球体 4 には、前記係止孔 10 と中心軸を同じくして螺刻された螺孔 11 が形成されている。螺孔 11 の位置は、特に係止孔 10 の位置と同じ位置に形成されていなくてもよい。

【0024】

結着具 5 は、U 字状に曲折された棒状の結着部 12 と、その結着部 12 の一端に設けられ、雄螺子部としての、螺刻された螺子棒 13 と、その結着部 12 の他端に形成された球形の係止部 14 とからなっている。そして、球体 4 の螺孔 11 に螺子棒 13 は着脱可能に螺挿されて取付けることができる。結着部 12 は、棒状に限らず、例えば、細い板状のもので形成されていてもよい。結着部 12 の形状も直線状に形成されたり、円を描くように曲げられて形成されたり、円を描いた後擦れるように形成されていてもよい。係止部 14 は、球形に限らず、結び付けられた釣系の移動を制限することができれば、つまり、結ばれた釣系が結着部 12 から外れないようにする形状であれば、どのような形状に形成されてもよい。

10

【0025】

次に、上記のように構成された本実施形態の作用及び効果について説明する。

釣系を結着具 5 に取付ける場合には、釣系に投げ縄結びを作り、その輪に係止部 14 を通過させてから曲折された結着部 12 に位置させる。そして、釣系を引っ張ると投げ縄結びの輪が締まり結着部 12 に結び付けられる。このとき、釣系の結び目が結着部 12 をずれて移動しても係止部 14 が結び目の移動を制限し、釣系が結着具 5 から外れない。次に、釣系を結着具 5 から取外す場合には、投げ縄結びの輪を広げると、取付ける場合とは逆の手順で結着具 5 から外すことができる。

20

【0026】

図 2 に示すように釣系を球体 4 の係止孔 10 に取付ける場合には、係止孔 10 に釣系 16 を貫通させ、通路孔 8 を通して、開口 7 から出させる。このとき、釣系が細く、結び目を作ったとき、係止孔 10 の直径よりも結び目が小さくなる場合には、結び目より小さい孔を有するもの、ここではビーズを釣系 16 に通す。そして、釣系 16 の先端に結び目 15 を作って逆方向へ引くと、結び目 15 またはビーズが係止孔 10 に引っ掛かって釣系 16 を係止することができる。釣系 16 を係止孔 10 から取外す場合には、釣系 16 を係止孔 10 へ押し込む。そして、係止孔 10 に係止されていた結び目 15 を通路孔 8 に通過させ開口 7 から出させる。そして、出てきた結び目 15 を解く、または切断して釣系を逆方向へ引っ張ると外すことができる。

30

【0027】

球体 4 は、回転軸を一定としないため球体 4 は自在に回転する。釣系が縋れると、釣系による縋れを解消しようとする力をうけて、釣系の垂れ下がった方向を軸として球体 4 は回転する。そのため、釣系の縋れを解消することができる。また、釣系が釣竿 1 に絡みついたとき、結着具 5 に係止された釣系を引っ張ると、球体 4 がその方向へ回転し、結着具 5 が引っ張った方向へ向きを変える。そして、さらに引っ張られると、その張力によって釣竿 1 の長手方向を軸として球体 4 が回転し、釣系の絡みつきを解消することができる。また、従来の釣竿で行なわれているように、釣竿 1 を釣系の絡みつきを解消する方向へ回すように煽ることにより、釣系の縋れが解消する方向に球体 4 が回転し、容易に絡みつきを解消することができる。

40

【0028】

したがって、本実施形態の釣系係止具を利用すれば、従来の釣系係止具と比較して、さらに、釣系が釣竿 1 に絡むのを防止し、また、釣系の縋れを防止することができる。また、結着具 5 に取付けるか、または球体 4 の係止孔 10 に取付けるかどちらか好きな方を選択して使用することができる。結着具 5 や係止孔 10 を使用することにより釣系を容易に取付け、取外すことができる。

【0029】

(第 2 実施形態)

次に、別の一実施形態について図 3 及び図 4 を用いて説明する。

50

図 3 に示すように釣竿係止具は、金属製であり、釣竿 1 の穂先側先端に装着された、本体部としての係止具本体 2 と、その係止具本体 2 の穂先側端部に突出して取付けられた、管状部としての円筒管 3 と、その円筒管 3 に回転自在に嵌められて取付けられた球体 4 と、その球体 4 に設けられ、釣糸を係止するための係止手段としての結着具 5 とを備えている。

【 0 0 3 0 】

係止具本体 2 は、円柱形状をしており、一方には、釣竿 1 に嵌められて取付けられている。係止具本体 2 の他方には 1 列の係止溝 2 0 が形成されている。円筒管 3 の内壁には、リング状の突起 2 1 が形成されおり、この突起 2 1 は前記係止溝 2 0 に嵌められ、円筒管 3 は回転可能に係止具本体 2 に取付けられている。円筒管 3 の穂先側端部には、突片としての、内側に湾曲した 3 つの支持片 2 2 が形成されている。支持片 2 2 は 3 つに限定されず、複数であればいくつであってもよい。

10

【 0 0 3 1 】

円筒管 3 の端部内壁周囲、及び前記 3 つの支持片 2 2 は、円筒管から穂先側先端方向に一部が突出しており、球体 4 を回転自在に嵌めこんで取付けることができるように、湾曲して形成された球体うけ溝 9 を備えている。その球体うけ溝 9 に、一部を切断された球体 4 が回転自在に取付けられている。球体 4 の切断面中心から球体 4 の中心を貫くように孔 2 3 が形成され、切断面の孔 2 3 の入口には、その孔 2 3 の部分より小さい径の孔を有する結着具止め 2 4 を備えている。

【 0 0 3 2 】

結着具 5 は、球体 4 の切断された部分に取付けられると、球体 4 が球体形状となるように形成されたものであって、結着部 1 2 と係止部 1 4 とを備えている。結着具 5 と球体 4 とは切断面が合わされて、結着具止め 2 4 の孔にリベット形状の止め具 2 5 を通され、結着具 5 の切断面中心に接着されている。そのため、結着具 5 は球体 4 に対して止め具 2 5 を軸として回転可能である。結着具 5 と球体 4 とは回転可能であればどのような取付け方で取付けられてもよい。したがって、一部を切断された球体 4 と、球体 4 に取付けられた結着具 5 とは、全体として球体形状になっており、結着具 5 が円筒管 3 に引っ掛かることなく球体 4 は回転自在である。

20

【 0 0 3 3 】

次に、上記のように構成された本実施形態の作用及び効果について説明する。

30

球体 4 は、回転軸を一定としないで回転する。また、一部を切断された球体 4 と、球体 4 に取付けられた結着具 5 とは、全体として球体形状になっているため、球体 4 の回転範囲が広がる。さらに、球体 4 は円筒管 3 の側壁のみでなく 3 つの支持片 2 2 によっても円筒管 3 から穂先側先端方向に一部を可能な限り突出させて回転自在に取付けられている。また、各支持片 2 2 の間には、結着具 5 や結び付けられた釣糸の移動を阻害するものがない。そのため、球体 4 に設けられた結着具 5 の移動範囲がさらに広がる。そのため、釣糸が縊れると、係止手段が釣糸にかかる力の方向に可能な限り傾くため、球体はさらに回転し、釣糸の縊れを解消することができる。

【 0 0 3 4 】

釣糸が縊れると、釣糸による縊れを解消しようとする力をうけて、釣糸の垂れ下がった方向を軸として球体 4 は回転する。さらに、球体 4 を補って結着具 5 も回転する。そのため、釣糸の縊れは解消される。また、釣糸が釣竿 1 に絡みついたとき、結着具 5 に係止された釣糸を引っ張ると、球体 4 が引っ張られた方向へ回転し、結着具 5 もその方向へ向きを変える。さらに、その張力によって釣竿 1 の長手方向を軸として球体 4 または円筒管 3 が回転し、釣糸の絡みつきを解消することができる。また、従来の釣竿 1 で行なわれているように、釣竿 1 を釣糸の絡みつきを解消する方向へ回すように煽ることにより、釣糸の縊れを解消する方向に円筒管 3 が回転し、容易に絡みつきを解消することができる。

40

【 0 0 3 5 】

したがって、本実施形態の釣糸係止具を利用すれば、球体 4 と独立して、結着具 5 と円筒管 3 とが回転するため、さらに効果的に釣糸が釣竿 1 に絡むのを防止し、釣糸の縊れを

50

防止することができる。また、結着具 5 に結び付けられた釣糸を張ることにより、さらに、容易に釣糸の絡み、釣糸の縊れを解消することができる。釣竿の使用中でも、釣糸が釣竿 1 に絡むのを防止しするとともに、釣糸の縊れを防止することができる。

【 0 0 3 6 】

本発明の釣糸係止具は、上述した 2 つの実施形態に限定されない。例えば、釣糸を貫通させて結び付けることのできる輪部、開口部、または孔部を有する結着部としての結着具を第 2 の係止手段として用いてもよい。例として、結着具として U 字状の金属棒の両端を球体に取り付けたもの、結着具として P 字状に形成された金属棒の一端を球体に取り付けたもの、球体に結着具として孔を有する金属板を取り付けたもの、それら結着具を回転自在に球体に取り付けたもの等である。このようにすると、スナップ金具を使用することにより、さらに容易に釣糸を取り付け、取外すことができる。また、球体は、円筒管の穂先側端部に形成された、内側に湾曲した複数の突片と、係止具本体とに回転自在にはさみ付けて取付けられてもよい。

10

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 7 】

【図 1】第 1 実施形態における一部断面を含む釣糸係止具を示す斜視図

【図 2】第 1 実施形態における釣糸係止具を示す断面図

【図 3】第 2 実施形態における釣糸係止具を示す断面図

【図 4】第 2 実施形態における一部断面を含む釣糸係止具を示す斜視図

【符号の説明】

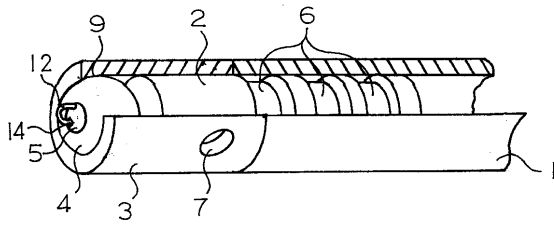
20

【 0 0 3 8 】

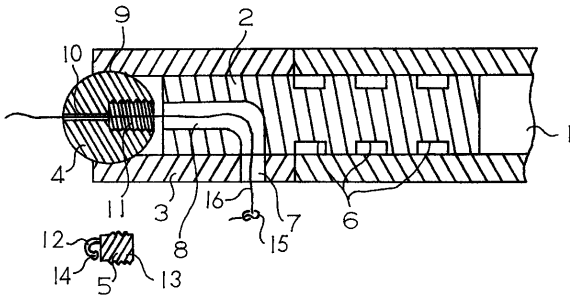
- | | |
|-----|-------|
| 2 | 係止具本体 |
| 3 | 円筒管 |
| 4 | 球体 |
| 5 | 係止具 |
| 7 | 開口 |
| 8 | 通路孔 |
| 1 0 | 係止孔 |
| 1 1 | 螺孔 |
| 1 2 | 結着部 |
| 1 3 | 螺子棒 |
| 1 4 | 係止部 |

30

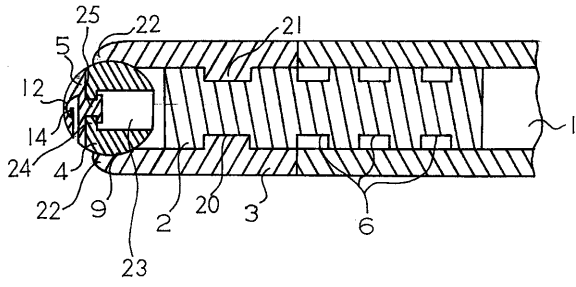
【図 1】



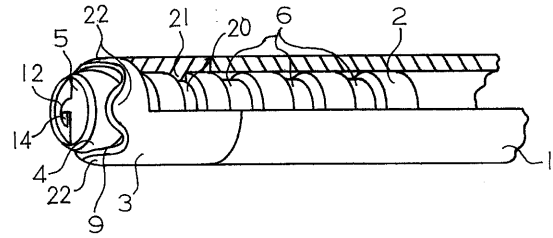
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2001-103873(JP,A)
実開平02-083756(JP,U)
実開平03-067556(JP,U)
特開平11-075629(JP,A)
実開平02-137867(JP,U)
特開平08-084548(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A01K87/00-87/08